

高退協ニュース

高退協事務局
1989.8.1
No. 43

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内二丁目一〇
教育会館内 高退協気付
TEL〇八八八―二二六八二三
振替口座徳島五―一八八九三

暑中

お見舞申し申し上げます



高退協役員一同

暑中お見舞申し上げます。私たちは、今回の政治決戦に力の限り闘いました。みなさんの御健闘に心より敬意を表します。

結果は、自民惨敗、社会躍進となりましたが、これで消費税は廃止され、年金制度改

お願い

研修旅行

の行先・日程の希望をお寄せください

恒例の高退協行事としておこなってきた研修旅行もすでに四回を重ねました。昨年は十月二十六日・二十七日、瀬戸田・西日光耕三寺・大三島・大山祇神社へ今治経由で実施。皆さんよく知りつつ、近

第二二回

夏季学習講座

の一案内

第一回・第二回の講座は高令者の「健康問題」を中心に開催しましたが、本年は左の通り私達にも最も関心のある情勢問題を取りあげて講座を開くことにしました。暑い時ですが、おたがいに顔をあわせ、語りあつて、若さを発揮しようではありませんか。

- 一、日時 八月二十六日(土) 午後二時より
- 一、場所 高知グリーン会館 (電停県庁前より南へ約五十メートル)

一、内容
○労働戦線をめぐる情勢について
(日教組はどうなるか)
○統一労働総務局長 国松 勝氏
○高令者の福祉問題について
(私達の年金はどうなるのか)

県年金者組合設立準備委員長 西森 睦氏
なお講座終了後希望者による恒例の懇親会をもつ予定です。多数のご参加をお願いします。(会費四千元) 以上

悪が阻止されたわけではありませぬ。まだまだ闘いはつづきます。これからも私たちの生活をおびやかす敵を、しっかりと見据えて、がんばりましょう。御健勝を祈ります。
七月二十五日

名簿の訂正

清家五夫先生を五男とおわびして訂正します。



況を語りながら政治への怒りも、毎年の参加を待た望んでいる方もあり、思いやりと友情の研修旅行でもありました。ところで、できる限り多勢の方に参加していただくため、今年度旅行の日程(いつごろ・河泊で)行先などのご希望を聞かせていただくことになりました。役員への電話、はがきで結構です。ぜひお知らせ下さい。会費納入について
本年度の会費納入状況は次の通りです。
納入者二五二名中一一九名(七・二五現在)
未納者は同封紙込用紙で納入されようお願いします。

二大政見

(M・T)

参議選終る。保守歴史的敗北。ミスおたかさんの社会党正勝。気温三十度。不快指数八十。炎熱の土佐路で、「この夏政治を突よう」のスローガンはどうなつたのだろうか。三ヶ月、五階の選挙たまり場まで、歩いて階段を昇つての電話対話には疲れた。でも、もう過去の話。歴史は足早である。自民党の敗北は、主権者国民が求めた構造的な政治的勝利でもある。革新中道は

事務局だより

六月二十二日 事務局会議により、中国天安門事件に抗議するため、中国大使館に対し怒りをこめて打電する。七月一日 高退協定期大会が開始される。本年度退職者を代表して坪井氏があいさつ。年金組合問題について西森氏が報告する。
七月二十五日 事務局会において退職後、学校勤務の時と違つて「検診」を受けることをしなくて病気が手おくれになる例が多い。従つて検診の定例化・検診料についての補助金給付等の措置を制度化する運動をおこなうことが提起され、当面県退協に申し入れをすることが決議された。

美空ひばりと 天宮至報

木戸 昭平

週に一日四時間、K校で近代日本文学史の授業を持っている。「今朝のテレビでやりよつた。美空ひばりは死んだ」と「ウッソウ」「先生がウソをついてどうする。今日の高新の夕刊、あしたの全国紙の朝刊にはゼツタイ一面記事へ出ちゃうろう。」「先生、そりゃちがう、三面記事(社会欄)よ」「かけしちやオカ。いや、先生はかけせられん。かけだけ取り消し」こんなことばのやりとりときだけ生徒が発らつとすることが、なさない。

高教組

夏見期学子羽白会

- 一、日時 8月二十一日(月) 二十二日(火)
- 二、場所 土佐郡大川村 自然教育センター 「白滝」 Tel 0887-94-2311
- 三、内容
 - 1) 特別報告
 - ・ 香長支部の情勢について
 - ・ 生徒指導の非人権的実態
 - 2) 全国母親大会の報告
 - 3) 記念講演
 - 「九十年代の反動的教員」 千葉大教授 城丸 章夫
- 4、会費 六千円 (懇親会費を含む)

新聞の結果はごらんの通り。ひばりのマスコミ報道はテレビを含めて天皇崩御ほどむろんしつこくはない。そして戦後の自分史と重なるところ額して解放的でなつかしさがある。政治不信を醸造するためにやってくる君が代、日の丸の押しつけから脱却し、週休六日制を案じめるこのごろは、孤独でもまた、ここに幸あり、というものだ。(八九、六、二七)

お知らせ

「こうたいきょう」の編集について

- 今年度発行の機関誌は十号となりますので、特集を組むことになりました。特集記事として事務局で考えているのは
- 1 会員の近況報告(その他誌等)
- 2 高教組執行部との座談会「当面する教育問題」(課題)
- 3 年表「高退協の歩み」の三つです。ご意見をお寄せ下さい。特集もの以外にも多数の投稿をお願いします。原稿締切九月末日